

学会ニュース

No1



新任教員インタビュー



林 亮輔 (はやし りょうすけ)

関西学院大学経済学部卒業
関西学院大学大学院 経済学研究科
博士課程後期課程 修了

1. 大学に着任されて数週間になりますが、大学や学生にどのような印象を持ったか教えてください。

以前、鹿児島大学にいました。鹿児島大学の学生は初対面から凄く寡黙でシャイな人が多かったです。それに対して、甲南大学の学生は人に慣れており、初対面を感じさせなくすごく授業がしやすく元気があるなというのが今の印象です。

2. ご出身はどちらでしょうか？出身大学の関西学院大学ではどのような勉強をされていましたか？

出身は関西の兵庫県で、生まれは神戸、育ちは宝塚、鹿児島に行く6年前まで関西で過ごしていました。大学は関西学院大学に

行き、ゼミは財政学を選考するゼミで、基本的にグループ活動が多かったです。例えば、大阪大学とディベートがあったり、財政学が専門のゼミ同士でディベートがあり、そこに向けて勉強をしていました。基本的にはどんなテーマにしてもいいゼミだったので、財政学が専門なのですが、道州制や空港の事を取り扱って幅広く学んだ楽しい学生生活でした。

3. 先生の研究テーマである「公共経済」の研究中に大変だったことや思い出に残っていることはありますか？

分野によらないですが、自分が主張するときに客観的なデータがないと主観で言っても相手には響かないので、客観的にデータを収集し、それを分析した結果で、自分の考えを伝える。これはどの分野でもそうだと思いますが、その時にデータを沢山集めないといけないのが大変です。例えば、公共経済の分野だと、市町村の情報だと市町村数が1000を超えるので、年代別でデータを取ったら莫大なデータになります。それを分析して実際に論文に出したら、ほんの少しにしかならない。こういう所が研究する上で、大変だと思います。後は、関西にずっといたので地方の経済が疲弊していてもなかなか実感が湧きませんでした。教授には、本やデータで表れているのがすべてではなく、現場に向いて学んだ方がいいよと言われました。私はそれを鹿児島大学に行って、経験でき、実際にその地域の人々とその地域の経済や、地方の財政

を考えていくのは、楽しい事でもあり大変な事でもありました。ただ若い時期に外の世界を見てくる機会があって良かったです。

4. 後期からゼミを持たれますがどのようなゼミにしたいですか？ またどのような学生に来てほしいというものはありますか？

ゼミは、行って良かったと思えるゼミにしたいです。行って良かったと思えるには色々な要素があると思うけど、僕が思っているのは、ちょっとしんどい思いをしてもらって、仲間同士で頑張る事で壁を一つ一つ乗り越えていく、その中で仲間同士の友情が芽生えていって最終的にあのゼミに行って良かったなと思えるゼミ。また、卒業してからも関わりがあるゼミ。鹿児島大学ではそういう縦の繋がりのあるゼミが出来た。だから、甲南大学でもそういうゼミが出来たらなという望みです。僕の入っていたゼミも先輩と後輩が一緒に受けていた訳ではないけど、研究の事になると聞きに行ったり、飲み会とかがあると来てくれたりとか、どんどん仲が深まっていったゼミであつたので、自分のゼミもそういうゼミにしたいです。どういったゼミ生に来て欲しいかというと、勉強が出来ないとかは問題ではなく、必死に一つの事に打ち込める、楽しめる子が来てくれたらいいなと思っています。しんどいと思うけど楽しみながら乗り越えていけるような人に来て欲しいし、そうなりたいと思っている人に来て欲しいです。

5. 学生時代の楽しかった思い出は何ですか。

ゼミ活動が中心だったので、ゼミが一番楽しかったです。もちろん自分もしんどかったけど、図書館で集まって勉強するとか。で、みんなもそうだと思うけど、すぐには勉強に入らなくて、恋愛の話とかをしながら集まってから 1 時間とか経って、勉強しようと言って勉強し、そういう日々の集まりが楽しかったなと思います。仲が良かったので、今でも集まりますし、集まるのが苦ではなかったというのがあって、そういう日々の集まりが楽しかったです。

6. 授業のやり方でこうしようと考えている事やこだわっていることはありますか？

講義でも一方的に自分が話をするだけの授業というのは、学生にとって面白くないと思います。自分も学生時代はしんどかった。極力、双方から考える授業を目標にしてやっています。後、経済学をなぜ学ぶのかというのを、最後まで疑問に思いながら 15 回が終わってしまうのではなくて、経済学を学ぶというのが自分の生活にとってこう影響するんだという所を僕の方から明確に提示して、ちょっと興味あるから勉強してみようかなという風に思ってもらえる講義を目指しています。

7. 最後に甲南大学で経済学部を教えるにあたっての意気込みや学生に頑張してほしいことなどのメッセージをお願いいたします。

甲南大学に来て、良かったなと思える生徒を育てたい。ゼミだけでなく講義を通じて、社会人になってから甲南に行って良かったなと思ってもらえる学生を一人でも多く育てるとというのが僕のここでの使命であり、やりたい事だと思っています。メッセージとしては、何事にも恐れずチャレンジして欲しいと思っていて、例えば、この質問をすると恥ずかしいかなと思う事でも、とりあえずしてみるとか。研究室入りにくいと思っている時に勇気をだして行ってみる。そうすると、行かなかった時より行った後の方が満足感や達成感は得られると思うので、そういうチャレンジ精神ではないけど、一步踏み出すという事を大学生活の中でやってもらえると、踏み出す幅がだんだん広がっていくから。そういう事を甲南の学生に求めたいです。



担当 磯部、山下

編集 多田